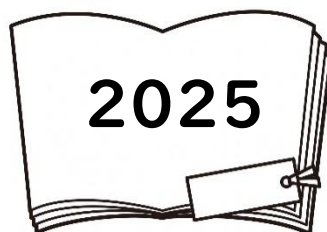


としょかん
へきなんの図書館がすすめる
なつやす
夏休みの本
ほん
2025

ねんせいむ
(5・6年生向き)



としょかん ほんかん ぶんかん
図書館（本館・分館）におすすめの本のコーナーが作っております。ぜひ、見てみてね！
かしだしちゅう ほん よやく
貸出中の本は予約ができます。（借りられるようになったら連絡します。）

つづ みち
『わたしに続く道』
山本 悦子／作 金の星社（913ヤ・ワ）
ケニア人の父と日本人の母との間に生まれたリイマ。日本で生まれ育ったけれど、周りから外国人として扱われたことがきっかけで、自分は日本人だという思いがゆらぐのだった。そんな複雑な思いを抱えたまま、父の故郷であるケニアへ行く機会がやってきた。サバンナを旅して、雄大な自然を前にしたリイマは、自分は自分であることに気づいていく。



『アゲイン』
あんず ゆき／作 フレーベル館（913ア）
友だちとの関係などがうまくいかず悩んでいたアオイ。ある日「フードバンク AGAIN」の看板の前で偶然同級生のカンナに出会った。そこは子どもならタダで食べられる「子ども食堂」。フードロスやフードバンクのことを知り、手伝いをはじめたアオイは…。



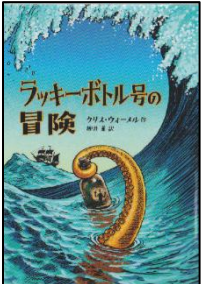
『どすこい!』
森塾 こみち／作 国土社（913モ・ド）
春の相撲大会で、東京からやってきた真壁豪と対戦して、こてんぱんに負けてしまった凡と健太。秋の大会では絶対に勝ちたい二人は、元力士だったという駄菓子屋「わしや」の権蔵さんに相撲を教えてもらうことにし、練習に励んでいく。



ごう ごう
『ツバメ号とアマゾン号』
アーサー・ランサム／作 岩波書店（933ラ・ツ・ア）
ウォーカー家の4人兄弟は、夏休みにな小さな帆船ツバメ号に乗って、無人島へ。島で起こる冒険の物語。



ごう ぼうけん
『ラッキーボトル号の冒険』
クリス・ウォーメル／作 徳間書店（933ウ・ラ）
10歳の少年ジャックは、嵐で船が難破し、ある孤島に流れ着いた。島に住んでいたロビンソンという男と、洞穴でくらすようになったジャックは、島に海賊の宝が埋まっているかもしれないことに気づいて…。



ものがたり
『しかばねの物語 チベットのむかしばなし』
星 泉／編訳 のら書店（929シ）
しかばねを竜樹大師のところへ連れていくことになったデチュー・サンボ。道中、しかばねがどんなに面白い物語を語っても、一言もしゃべってはいけない。しゃべったとたん、元の墓場へ逆戻りしてしまうのだ。チベットで長く愛されてきた昔話。



うた
『ブラックバードの歌』
カチャ・ベーレン／著 あすなろ書房（933ベ・ブ）
フルートを生きがいにしていた少女アニーは、事故で手をけがしてしまう。リハビリをすれば元通りフルートも吹けるはずと医者に言われたが、なかなかその氣になれず…。



そら しんわ
『空へつづく神話』
富安 陽子／作 偕成社（913ト・ソ）
理子は学校の図書室で、自分の名前も帰る場所もわからないという白いヒゲの神様に会った。神様は、一体何者なのか、どこから来たのか。理子は神様を手伝って、史蹟を訪ねたり、図書館で歴史を調べたりすることにした。



いし げんそ あんないにん
『石は元素の案内人』
田中 陵二／文・写真 福音館書店（459イ）
空、水、木やパン、あなたや私。私たちが生きている、この自然界のすべてのものは、たった90種類の「元素」の組み合わせでできているんだって。それを教えてくれるヒントをにぎっているのが石。身近にある石をながめながら読んでみて。



かいが かいが
『絵画をみる、絵画をなおす 保存修復の世界』
田口 かおり／著 偕成社（724カ）
絵や彫刻などの美術作品をなおす「修復家」ってどんな仕事？ 美術作品が生まれたときのすがたをさぐりながら、これからのかたちを考え、保存修復の世界を紹介した本。



ふん
『せんそうがおわるまで、あと2分』
ジャック・ゴールドスティン／作 合同出版（Eゴ・セ）
第一次世界大戦が始まり、軍隊に入ることになった幼なじみのジュールとジム。1918年11月11日11時に戦争をやめることが決まっても、戦場へ行くよう命じられた2人は…。カナダ兵の実話を元にしたお話。



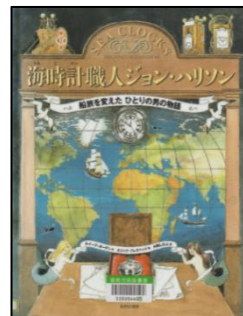
『ブルーラインから、はるか』
林 けんじろう／作 講談社（913ハ・ブ）
夏休み、6年生のコタは、図書館で偶然出会った4年生の風馬から「自由研究を手伝ってほしい」と声をかけられた。その自由研究とは、二人が住んでいる広島・尾道から愛媛・今治を結ぶ「しまなみ海道」を自転車で渡るといふものだった。



す さかな みりようぎょ
『捨てられる魚たち「未利用魚」から生まれた奇跡の灰干し弁当ものがたり』
柳木 春幸／著 講談社（667ス）
漁師さんがとっている魚の約3割ほどが食べられずにそのまま捨てられているそう。著者は、その「未利用魚」を使った「桜島灰干し弁当」を開発した料理人。フードロス問題や日本の食文化を考えるきっかけになる本。



うみどけいしよくにん
『海時計職人ジョン・ハリソン』
ルイズ・ボーデン／文 あすなろ書房（289ウ）
何百年ものあいだ、人は、海の上で今いる位置がわからないまま航海をしていたそう。18世紀に海時計を作り、世界の船の旅を大きく変えた、ジョン・ハリソンの物語。



じゅうまんぼん や さんごくしえほん
『十万本の矢（三国志絵本）』
于 大武／絵 唐 亜明／文 岩波書店（Eウ・ジ）
今から1800年前、中国の三国時代、魏・呉・蜀という三つの国が天下を争っていたころのお話。呉の軍師・周瑜は、蜀の軍師・孔明をねたみ、わずか三日間で十万本の矢を用意するよう、無理な約束をさせた。そこで孔明が考えた策略とは…？

